



神吉知郁子さん・神吉康二さん  
向台町在住／共に20歳代

（以下、夫を「康二さん」、妻を「知郁子さん」と表記）

分担を決めてしまふと、かえってお互いに負担が生じます。暑い日には娘とビニールブルで遊び、目下の趣味も子育てです

「そうはいつて

も毎日の食事は大変なので

は?

と伺ったところ、知郁子さんは「料理が大好きなので、大変を感じないので

す。頭を切り替えるための楽しみ、いわば私の趣味です」家事も育児も共有して、それを楽しめる柔軟な家族関係です。

私の母も職業を持ち続けることが不可能で主婦になりましたが、有能な資質を仕事に生かすことを諦めなければ結婚も出産もできない、という現実は変わらなくてはおかしいと思います」と知郁子さん。康二さんも「男性が働きすぎだと思います。家庭より仕事を優先する男性が評価されたり、個人的な都合を言い出しにくいのが現実です。一生を仕事だけでいいと考える男性も多いのです。これでいいと考へる結婚しても、女性に家庭のことをまかせきりにしてしまいます。子育ては本当に楽しいし、男性にも大切な仕事です。

男性も意識を変えなければ男女平等参画社会には近づけないですね」

二人とも家庭教師の経験から、子どもをとおして母親が自己実現をはかることがあります。子どもにはよくない影響を感じたそうです。

「犯罪が増えているのが心配です。深夜まで外で遊んでいる子どもたちの自己防衛意識の薄さが問題です。「自分になにかあれば悲しむ人がいるんだ」と子どもが自覚するには誰かに愛されている実感が不可欠なのです」

育児方針は「できるだけ自然な子ども時代をおくること」と「夫婦で一致していません。「そこから自分のやりたいこと、打ち込めるを見つけてほしい。自分にしかできないことをみつけて自立してほしい」とのことでした。

## 自然な協力のかたち

奨学金を受けながら労働法を研究している大学院生の知郁子さん。夫の康二さんは司法修習生。二人は大学で知り合い、卒業と同時に結婚。

## 仕事も家庭も

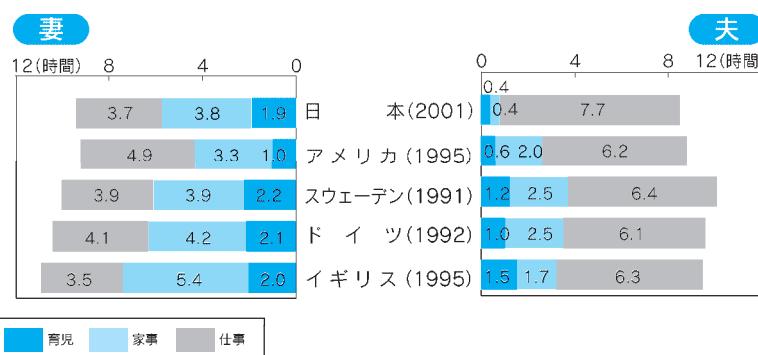
「0歳児保育も申し込んだのですがダメでした。でも隣に住む義父母がみてくれているので、週4日の大学の間は預けています。今の生活があるのは義父母のおかげです。9ヶ月なので夜中には2度ほど起きますが、私が夫のどちらかが何か飲ませればまたぐつすり。手のかからない子です」と、知郁子さんの生活リズムは順調です。

康二さんも「司法修習生は比較的規則的な生活ができます。家事・育児をどう分担するかを改めて話し合ったわけではなく、その時にできる人がします。

## 子どもに望むこと

「仕事が充実しても家庭の充実がなければ幸せとはいえないのではないか」というか。大学時代、就職活動では『家庭と両立できる職業は何か』が話題でした。彼女たちの大きな悩みは結婚して育児をするのか、仕事一筋かという究極の岐路にたつてしまふことです。友人の女性たちの中には仕事に生き甲斐が見出せず、3～4年で退職し、海外に行く人も増えています。専業主婦を選んだ女性と仕事を続ける女性とに二極化しています。

## 育児期にある夫婦の育児、家事及び仕事時間の各国比較



【備考】1.OECD「Employment Outlook」(2001年)、総務省「社会生活基本調査」(平成13年)より作成。  
2.5歳未満(日本は6歳未満)の子どものいる夫婦の育児、家事労働及び稼得労働時間。  
3.妻はフルタイム就業者(日本は有業者)の値。夫は全体の平均値。  
4.「家事」は、日本以外については「Employment Outlook」(2001年)における「その他の無償労働」。  
5.日本については「社会生活基本調査」における「家事」、「介護・看護」及び「買い物」の合計の値であり、日本以外の「仕事」は「Employment Outlook」(2001年)における「稼得労働」の値。

【平成15年版】男女共同参画白書より